

グローリーのCSR

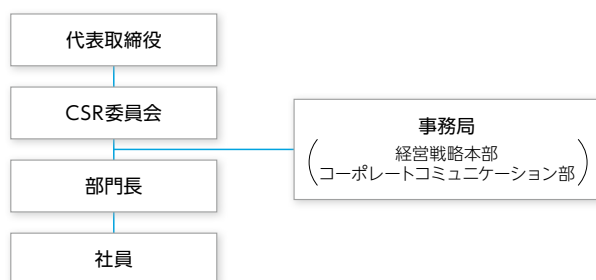
■ 基本的な考え方

当社グループは、「私たちは『求める心とみんなの力』を結集し、セキュア(安心・確実)な社会の発展に貢献します」という企業理念の下、これまで培ってきたコア技術と新たな価値を創造する先進的な技術で社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

■ CSR推進体制

当社グループは、経営層から構成される「CSR委員会」を設置し、CSR経営を推進しています。委員会は年2回開催し、CSR経営に関する基本方針や基本計画、CSR活動に関する年度重点方針の策定などを行っています。

CSR推進体制



■ CSR教育

企業理念の実現に向けた意識を共有するため、企業理念や経営理念、企業行動指針などを掲載したハンドブック「私たちの指針」(8カ国語に対応)をグループ全社員に配付しています。また、eラーニング形式によるCSR研修の実施や社内イントラネットを活用したCSRに関する情報発信など、CSRへの理解促進を図っています。2019年度は、関連部門を対象に、外部有識者を招き、ESGに関する研修を実施しました。



ハンドブック「私たちの指針」

■ 国連グローバル・コンパクト

当社は、2014年3月、国連グローバル・コンパクトに署名しました。国連グローバル・コンパクトの「人権・労働・環境・腐敗防止」の4分野10原則が、当社グループの企業行動指針と共通の価値観を持つと考えています。企業理念の実現に向け、企業行動指針に則った活動を展開し、グループ全体で国際的な課題解決に向けた取り組みを推進していきます。



国連グローバル・コンパクトの10原則

人 権	原則 1: 人権擁護の支持と尊重 原則 2: 人権侵害への非加担
労 働	原則 3: 結社の自由と団体交渉権の承認 原則 4: 強制労働の排除 原則 5: 児童労働の実効的な廃止 原則 6: 雇用と職業の差別撤廃
環 境	原則 7: 環境問題の予防的アプローチ 原則 8: 環境に対する責任のイニシアティブ 原則 9: 環境にやさしい技術の開発と普及
腐 敗 防 止	原則 10: 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み



国連グローバル・コンパクトに署名

https://www.glory.co.jp/csr/csr_news/detail/id=722

■ 持続可能な開発目標(SDGs)への貢献

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、貧困や雇用、環境などの社会課題に対する2030年に向けた世界共通の目標です。

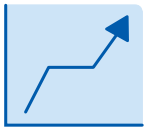
当社は、世界が直面するさまざまな課題と真摯に向き合い、事業活動を通じて持続可能な社会の実現、すなわちSDGsの達成に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



■ ステークホルダーとの対話

ステークホルダーに対する情報の適正な開示と、相互間の対話・協働に努めます。

ステークホルダー	主な対話の機会
お客さま 	日本はもとより世界各国で、当社グループの製品やソリューションをご紹介し、より多くのお客さまと直接対話する機会を設けています。 ・ 日常の営業活動 ・ コールセンター ・ メンテナンス訪問 ・ 展示会 ・ ショールーム見学 ・ 工場見学 ・ 当社ウェブサイト  ドイツ最大のリテール向け展示会「Euro Shop 2020」に出展
お取引先さま 	お取引先さまは、高品質な製品を安定的に生産するための大切なパートナーであり、協力体制の確立が不可欠です。グループ全体でお取引先さまとの信頼関係の構築に努め、ともに持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指しています。 ・ 日常の購買活動 ・ お取引先懇談会 ・ 品質会議 ・ 品質向上活動発表会 ・ 基板品質方針説明会 ・ お取引先さま訪問  品質向上活動発表会
株主・投資家 	迅速、正確かつ公平な情報開示によって経営の透明性を高めるとともに、建設的な対話を通じて当社の経営方針や事業活動への理解につなげ、株主・投資家の皆さまとの長期的な信頼関係の構築に努めています。 ・ 株主総会 ・ 決算説明会 ・ コンファレンスコール ・ 機関投資家個別訪問 ・ スモールミーティング ・ ショールーム、工場見学会 ・ 個人投資家説明会 ・ IRウェブサイト  株主総会後の株主さま向けショールーム見学会
社員 	経営幹部が積極的に社員と交流し相互理解を図ることで、経営活動に対する参画意識やモチベーションの向上、グループ全体の一体感醸成につなげていきます。 ・ 社長と語る会、現場巡視 ・ グループ会社訪問 ・ 労使協議会 ・ 社員意識調査 ・ 目標・キャリア面談 ・ 各種研修、プログラム ・ 社内報 ・ イン트라ネット  社長による工場巡視
地域社会 	「良き企業市民」として、各国・各地域において、社会貢献活動や環境保全に積極的に取り組んでいます。 ・ グローリー小学生育成財団を通じた次世代の育成支援 ・ スポーツ振興支援 ・ 開発途上国への支援プログラム ・ 森林整備、植樹、清掃活動 ・ 自然体験イベント ・ NPOとの連携  河川敷清掃活動への参加（フィリピン）

グローリーのCSR

■ グローリーのCSR重要課題

CSR重要課題の特定とSDGsとの関連付けプロセス

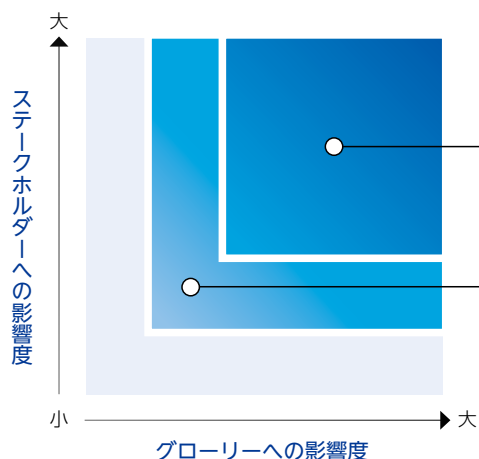
当社では、下記のプロセスに沿って重点的に取り組むべきCSR重要課題を特定し、特定したCSR重要課題と関連するSDGsの結び付けを行いました。

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4	STEP 5
CSR課題の把握・抽出 GRIスタンダード、ISO26000などの国際規格を基に、バリューチェーンの各段階（企画、開発、調達、生産、販売、保守、その他）における社会影響評価を行い、課題を把握・抽出しました。	自社視点およびステークホルダー視点での重要度の評価 事業部門およびコーポレート部門にアンケートを実施し、「グローリーへの影響度」と「ステークホルダーへの影響度」という2つの視点で優先順位付けを行い、重要度を評価しました。	有識者による妥当性の評価 重要度について、2名の有識者に妥当性を評価していただきました。その評価結果を踏まえ、「マテリアリティマップ」を作成し、課題を整理しました。	CSR重要課題の特定 「マテリアリティマップ」を基に、11項目を当社におけるCSR重要課題として選定し、5つのCSR重点テーマに分類しました。経営層からの承認を得た後、CSR重要課題として特定しました。	SDGsとの関連付け 特定したCSR重要課題と関連するSDGsとの結び付けを行いました。

目標と実績

	CSR重点テーマ	CSR重要課題	2019年度目標
新しい価値の創造	事業を通じた新価値創造	●業務効率化への寄与に加え、お客さまの事業の発展に貢献するビジネスモデルの構築	●多様なデータを活用したソリューションの構築
		●お客さまの「信頼できるパートナー」を目指し、定期的な進捗確認と満足度確認のスキームの定着	●モデル顧客を選定し、定期的なレビューを実施
環 境	環境への取り組み	●エネルギー消費量従業者原単位の改善 ●新製品のCO₂排出量の削減	●エネルギー消費量従業者原単位 年平均1%削減（2010年度基準） ●新規開発製品の省エネ（従来機比）15%以上削減
		●ステークホルダーとの協働による生物多様性保全活動の推進	●年次活動計画の実施率100%
社 会	人材への取り組み	●「働き方改革」の推進 ●事業に資する人材の育成と確保	●新たな働き方の実行と検証 ●階層別および次世代候補人材の育成
	サプライチェーンにおけるCSRの推進	●グローバルCSR調達の実施	●CSR自主点検チェックリストの継続実施および評価点向上のための活動 ●海外拠点においての活動展開
ガバナンス	ガバナンスの強化	●コーポレート・ガバナンスのさらなる強化	●コーポレート・ガバナンス・ガイドラインに沿った施策の推進
		●リスク管理活動の強化とグループ会社への展開	●グローバル視点でのリスク管理の実施とグループ会社への展開
		●コンプライアンス経営の強化とグループ会社への展開	●階層別教育の実施、グループ会社との連携強化

マテリアリティマップ



- 業務効率化への寄与に加え、お客さまの事業の発展に貢献するビジネスモデルの構築
- お客さまの「信頼できるパートナー」を目指し、定期的な進捗確認と満足度確認のスキームの定着
- エネルギー消費量従業者原単位の改善
- 新製品のCO₂排出量の削減
- 「働き方改革」の推進
- コーポレート・ガバナンスのさらなる強化

- ステークホルダーとの協働による生物多様性保全活動の推進
- 事業に資する人材の育成と確保
- グローバルCSR調達の実施
- リスク管理活動の強化とグループ会社への展開
- コンプライアンス経営の強化とグループ会社への展開

2019年度実績	2020年度目標	関連するSDGs
● OCR(光学式文字認識)技術を活用した保険薬局向け処方箋入力支援システムの提供 ● 「本人認証プラットフォーム」の実用化に向けた「顔認証」と「声認証」の組み合わせによる手ぶら決済サービスの実証実験の実施 ● スマートフォンでレジ売上集計が可能なアプリケーションサービス「レジとも」の実証実験の実施 ● 店舗業務支援アプリ「Shoppers Cloud」の試行開始	● 顔認証決済システムの社外PoCの実施 ● eKYCソリューションの提供	8 9 11 12
● モデル顧客の実験店舗にて、ビーコンを用いた顧客・従業員の行動分析による店舗変革支援を実施	● モデル顧客と、ビッグデータの分析結果に基づく定期的なレビューを実施	8 12 17
● エネルギー消費量従業者原単位 年平均2.2%削減(2010年度基準)	● エネルギー消費量従業者原単位 年平均1%削減(2010年度基準)	13
● 平均11.1%削減(14機種のうち7機種で目標達成 G-エコ製品に認定)	● 新規開発製品の省エネ(従来機比)15%以上削減	7 12 13
● 年次活動計画の実施率 100% 姫路:「グローリー夢咲きの森」 森林整備活動 82名(お取引先さまの参加 1社6名) 家族向け自然体験イベント 82名(お取引先さまの参加 1社9名) 関東:「東京都八王子市上川の里(特別緑地保全地域)」 森林整備活動 53名(お取引先さまの参加 1社5名) 「東京都荒川河川敷」河川敷清掃活動 21名	● 年次活動計画の実施率100%	14 15
● テレワーク(在宅勤務、モバイルワーク)の導入 ● フレックスタイム制の試行	● 新たな働き方の実行と定着 ● 健康経営の推進	5 8 10
● 次世代の幹部人材の育成に向けた「GLORY Business College」の実施(計7回)	● 階層別教育および次世代幹部候補人材の育成	4 5 8 10
● CSR自主点検チェックリストの実施(国内一次お取引先さま 451社)と回答企業へのフィードバック ※回答率:98% ● グローリープロダクツ株式会社におけるCSR自主点検チェックリストの実施(国内一次お取引先さま 62社)と回答企業へのフィードバック ※回答率:95% ● GLORY IPO Asia Ltd.におけるCSR自主点検チェックリストの実施(一次お取引先さま 80社)と回答企業へのフィードバック ※回答率:76% ● CSR自主点検チェックリストの海外拠点へのさらなる展開に向けた準備 ● CSR調達に関する覚書の作成	● CSR自主点検チェックリストの継続実施および評価点向上のための活動 ● Glory Global Solutions (Singapore) Pte. Ltd. 購買部門においての活動展開	8 10 12 17
● 監査等委員会設置会社への移行の決定(2020年2月外部発表) ● コーポレート・ガバナンス・ガイドラインの改定(2019年6月) ● ペーパーレス運用による取締役会議論の活性化、効率化、スマート化	● 監査等委員会設置会社への移行に伴う監督機能の強化と意思決定の迅速化(権限委譲) ● コーポレート・ガバナンス・ガイドラインの改定(2020年6月) ● 取締役会議論のさらなる活性化と議案の絞込み	16
● 海外グループ会社とのリスク評価項目・評価基準の統一 ● 大型地震およびサイバー攻撃に係るBCP訓練の実施と既存マニュアルの実効性レビュー	● 海外グループ会社とのリスク評価項目のさらなる整備 ● 新型コロナウイルス感染症への対応	16
● 当社および国内外グループ会社におけるコンプライアンス教育の実施	● 事業展開に即した法務機能の充実と強化 ● グローバル・コンプライアンス体制の充実 ● 当社および国内外グループ会社におけるコンプライアンス教育の実施	10 16

グローリーのCSR

■ バリューチェーンにおけるCSRの主な取り組み

当社グループの事業活動が、バリューチェーン全体で社会や環境にどのような影響をもたらすか、SDGsの169のターゲットレベルまで落とし込み検討したうえで、対応すべき課題を明確にしています。正の影響の強化や負の影響の最小化、SDGsへの貢献に向け取り組んでいるステークホルダーごとの主な取り組みをご紹介します。

正の影響の強化



人材への取り組み

- 「働き方改革」の推進
- 事業に資する人材の育成

- お客さまのニーズに合った製品の企画・開発・提供

事業展開

100カ国以上



事業を通じた新価値創造

- 新たな価値、ソリューションの創出



- 品質の確保
- ユニバーサルデザインへの対応
- 新技術を活用した製品の開発

研究開発拠点

7カ国 11拠点

研究開発費

140億円(連結)

開発スタッフ

国内 約800名

海外 約400名



- 品質の確保と競争力のある適切な価格の追求
- お取引先さまとのパートナーシップの強化



企画

開発

調達

- 製品ライフサイクルの企画



サプライチェーンにおけるCSRの推進

- お取引先さまとともにCSR調達を推進
- サプライチェーンにおける人権の尊重

CSR自主点検チェックリスト回答率

98% (グローリー株式会社)

95% (グローリープロダクツ株式会社)

76% (GLORY IPO Asia Ltd.)



環境への取り組み

- グリーン調達の推進
- 生物多様性の保全

調達した部品や資材によるCO₂排出量

Scope 3・カテゴリ 1

151,288 t-CO₂

(前年度比 15.9%減)



負の影響の最小化



人材への取り組み

- 人権や労働安全衛生への配慮
- ワークライフバランスの推進

年間総労働時間(正社員一人当たり)

2,004(時間/年)

休業災害度数率

0.80





CSR重点テーマ

■ お客さま

■ お取引先さま

■ 従業員

■ 地域社会

■ 地球環境



環境への取り組み

■ 環境配慮型製品の企画・開発・提供

環境配慮型製品

7 機種開発

環境配慮型製品の売上高比率

65.3%



- 品質と安定供給の確保
- リードタイムの短縮
- コスト競争力の強化

生産体制

3 カ国 9 拠点



- 製品・サービスに関する適切な情報の提供
- 顧客情報、個人情報の管理



- お客さまのニーズに合った製品・ソリューションのタイムリーな提供



- スピーディーで確実な保守対応
- 顧客起点による保守品質の向上
- お客さまのニーズに合ったサービスの企画・提供

保守スタッフ

国内 約 1,000 名

海外 約 2,400 名



生産

- 省資源化、リサイクル、リユースに配慮した生産と物流

廃棄物排出量

1,578 t(国内、海外)

ゼロエミッション達成サイト数

8 拠点(国内)



- 工場周辺の安全

販売

- 製品の使用、輸送、廃棄時の環境負荷低減

製品の使用によるCO₂排出量

Scope 3・カテゴリ 11

168,131 t-CO₂ (前年度比 15.8%減)

輸送・配送によるCO₂排出量

Scope 3・カテゴリ 4

10,711 t-CO₂ (前年度比 18.9%減)

使用済み製品の回収(広域認定制度利用)

約 156 t(グローリー株式会社、北海道グローリー株式会社)



保守

- エコカー導入
- ノンフロンガス型の清掃用品(リサイクルジェット)の販売

リサイクルジェット充填本数

53,356 本

(CO₂排出削減量: 27,745t)

製品の廃棄によるCO₂排出量

Scope 3・カテゴリ 12

1,771 t-CO₂ (前年度比 33.0%減)



環境への取り組み

エネルギーの使用に伴うCO₂排出量

Scope 1

Scope 2

13,230 t-CO₂ (前年度比 12.6%減)

